

みやざき木づかいデザインワークショップ

令和2年度、宮崎県立宮崎工業高校インテリア科で取り組んでいた「みやざき木づかいデザインワークショップ」において、提案されたデザインの中から「マスクケース」が商品化されました。

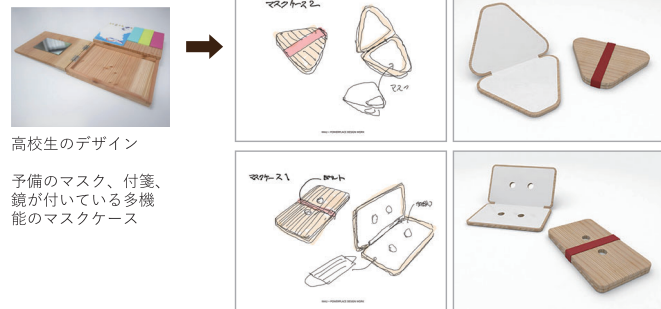
商品化に至った経緯

- ・令和2年 6月26日(金) 武蔵野美術大学若杉教授 WEB セミナー
- ・令和2年 7月 3日(金) 武蔵野美術大学井口教授 WEB セミナー
- ・令和2年 7月28日(火) 宮崎工業高校インテリア科コンセプト・デザインワークショップ
- ・令和2年 9月11日(金) 試作品の制作・最終プレゼン、デザインの評価
- ・令和2年 11月20日(金) 試作及びデザインのフィードバック

木育かわら版 Vol.13 Page3 掲載
 木育かわら版 Vol.13 Page3 掲載
 木育かわら版 Vol.13 Page3 掲載
 木育かわら版 Vol.15 Page2 掲載
 木育かわら版 Vol.15 Page3 掲載

商品化されたデザイン

マスクケース



高校生のデザイン

予備のマスク、付箋、鏡が付いている多機能のマスクケース

武蔵野美術大学、パワープレイスデザインチームによるブラッシュアップされたマスクケース



立体タイプのマスク用ケース

平リータイプタイプのマスク用ケース

商品化されたマスクケース
 説明書には、商品化までのストーリーと
 思いが書かれています。

- ・デザイン、アイデア元 宮崎県立宮崎工業高校 インテリア科
- ・アドバイザー 武蔵野美術大学、パワープレイス株式会社
- ・製造、販売元 株式会社 川上木材

商品名「Miyazaki Clean Mask Case」 みやざきクリーンマスク

通称「モクモク」(アルファベットの頭文字を取り「MCMC」(もくもく)です。このプロジェクトに参加していた学生の後輩が名付けました。

マスクケースの内側には、抗菌・消臭効果があるエアークリーンペーパーを使用し、木材は食品衛生法に適合した塗料で塗装されています。

製造を担当した川上木材によると、木材の反りの解決と内側の紙の種類を決定するまでに約3か月半かかったそうです。商品を手にする人に、木のぬくもりと、このマスクケースに込められた多くの関係者の思いが届くことを願っています。

木育活動に取り組んでいる施設の一部をご紹介します

国富町

木脇児童館

日時：令和3年8月10日(火) 10:00～11:30
 参加人数：26名



職員がコツを教えます



黙々と制作しています

コロナ禍で夏休み中のイベントなど中止が相次ぐ中、職員が子どもたちに少しでも楽しい時間を過ごしてほしいと考え、おもちゃコンサルタントの眞志喜さん(日向市)に協力を仰ぎ、ロボット工作を行いました。

子どもたちは夢中になって取り組み、木の良い香りが漂う中、楽しい時間を過ごしました。

出来上がったロボットは、子どもたちにとって、大事なトモダチになることと思います。



立体のいろんな大きさの木材が、子どもたちの手で、個性豊かなロボットになりました☆彡



木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスキ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL：0985(27)7682 / FAX：0985(25)2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。



木育かわら版 MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木



木に触れて、木と遊び、木を学ぶ

Vol. 16

Contents

Page1	木育リーダー研修会「園でつかうマイ箸づくり」
Page2	「みらい「木づかい・木育」推進事業 みやざき木育プログラム」とは？
Page3	「オビシギの箸置き」づくり お船のプログラム「チョロ船」づくり
Page4	みやざき木づかいデザインワークショップ 木育活動を行っている施設の紹介

みやざき木育プログラム研修会

木育リーダー研修会「園でつかうマイ箸づくり」

講師：松井 勲尚氏 (木育実践研修会・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
 吉田 理恵氏 (ぎふ木育推進員・NPOmusubi 代表・ぎふ木育協会副会長)

日時：令和3年7月3日(土) 9:00～17:00 場所：めぐみ保育園 (宮崎市)
 参加者：保育士16名 (めぐみ保育園、四季の森こども園)



みやざき木育プログラム・・・

宮崎県では、宮崎固有の文化や豊かな森林・木材資源をベースとした宮崎らしい木育プログラムの開発に取り組んでいます。

木育プログラムのモデル園として協力いただいている、めぐみ保育園(宮崎市)と、四季の森こども園(日南市)の保育士を対象に、みやざき木育プログラム第4弾「箸づくり」(対象:年中児～)の研修を行いました。このプログラムは、第1～3弾と違い、日常保育の中で実践する木育プログラムです。そのため保育士自身が園児に対して指導できる力を養うことを目的に行われました。

▶ 年少児の木育プログラムで既に「箸置き」が完成しています。次はいよいよマイ箸づくりです。両園の保育士がペアを組み「互いに協力してパートナーの箸を1膳つくる」という課題で取り組んで頂きました。朝9時から午後5時までの長時間の研修は気がつけばアツという間でしたが、達成感の大きな時間となりました。

箸の理想的な長さである一咫(ひとあた)半の話から始まり、箸の歴史や産地のこと、そして箸の材料の適材や割りばしと森林環境破壊の話まで学びました。これらのことを「知る」という学びは保育士が子どもたちに教えるための背景(自信)になるとのお話でした。

今回使用した樹種は、宮崎県の県木である「ヤマザクラ」で、箸の適材だそうです。

続いて、箸になる教材を自分に合った長さに切る「長さ決め」は、ノコギリの使い方を学んだ保育士が教え合いながら取り組みました。紙やすりを使って、箸を適切な太さにしていく「太さ決め」は、ひたすら4面を磨く作業でした。「この作業は姿勢が大切です。箸づくりで最も重要な学びとなります。姿勢が悪いと箸が曲がってしまいます。」と、保育士たちの背筋が丸くなっている様子を見て先生が指導してくださいました。

その作業風景はまるで座禅の道場のような雰囲気です。先生のチェックを何度も何度も受け、やっと合格が出て完成した時は喜びもひとしおでした。完成させた喜びだけでなく、「使う楽しみ」を胸に、子どもたちにどのように教えるか?を思い描きながら帰路につかれたことと思います。

◆実践



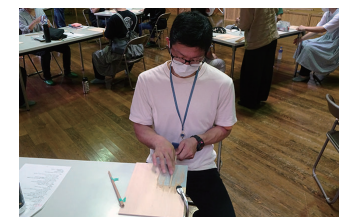
1. 中心線の墨付けをします



2. 長さを決めます



3. 印で切ります



4. 磨いて太さを決めます 喰い先の成形を行い、面取りを行います



※都度、先生のチェックを受けます



5. 仕上げ磨きを行い、水引、最終仕上げを終えたら、塗装を行い完成です

● 保育士の感想 ● <一部抜粋>

- ・木に興味や関心はそれほどない私でした。作る工程も苦手な作業内容で、多少苦痛な時間でもありました。しかも、自分の箸ではなく、人の箸の片方を任せられるというプレッシャー。ですが、仕上がるとなぜか喜びと特別な箸ができたことのうらやましが芽生えました。私の中で木に対する思いが変化したように思います。
- ・普段使用する箸を、たくさんの工程と時間をかけて作ることで、愛おしく大切に大切に使いたくなる箸が完成しました。

MOKUIKU

『みらい「木づかい・木育」推進事業 みやざき木育プログラム』とは？

宮崎県では、令和2年度から『みらい「木づかい・木育」推進事業 みやざき木育プログラム』に取り組んでいます。この取り組みは、人と木や自然、地域の文化との関わりを通して、宮崎の木や森に対する愛着を育むなど、地域に根差した宮崎らしい木育プログラムを目指しています。

真に木の良さや利用することの意義を理解してもらうためには、段階的で継続的な丁寧な取り組みが必要です。まずは幼児から、木でつくることが通じて「関心を持つ」木育活動を実践しています。

その取り組みを、宮崎市の〔めぐみ保育園〕と日南市の〔四季の森こども園〕のご協力により行っています。また、それぞれの園の地域の方々に、プログラムの実践のお手伝いをしていただく、「みやざき木育地域サポーター」になり木育活動を支援していただくことによって、子どもたちを地域で育て、つながる『まちづくり』を模索しています。

➤ これまでの取り組み・・・

- みやざき木育プログラム 第1弾「森の雫」
(対象：年少児～)
…木育かわら版 Vol.14 Page.1 掲載

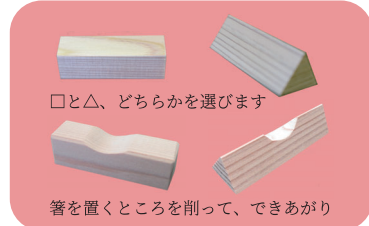
「森と水のつながり」を知り、自然への感謝の心を育ててほしい、という願いを込めたプログラムです。使う道具は“紙やすり”。思い描くカタチになるまで磨くので、根気が育まれます。



- みやざき木育プログラム 第2弾「オビスギの箸置き」(対象：年少児～)

このプログラムは、モデル園である“四季の森こども園”の園長先生の想いから生まれました。

大切な毎日の食事。一食一食が命を頂く大切な食事。食べ物に対する感謝の念と、それを料理して下さった方への感謝の念が自然と湧き起こります。食事の所作を丁寧にしたい、また、日本の伝統文化でもある『箸置き』を普段の生活に取り入れ、感謝の念をカタチに表したいと思いました。



教材は、建具職人である、小林市の川崎クラフトの川崎さんに作っていただきました。建具を作る時と同じ技術で、オビスギのまっすぐな木目を活かした箸置きです。また、子どもたちの力でも作りやすくなるように、専用の治具も作っていただきました。

このプログラムの地域サポーター養成講座の様子は、木育かわら版 Vol.15 に掲載しています。



みやざき木育プログラム 第2弾 (対象：年少児～)

『オビスギの箸置き』づくり

日時：令和3年3月22日(月) 10:00～12:00 場所：四季の森こども園(日南市) 参加者：34名
 日時：令和3年3月27日(土) 10:00～12:00 場所：めぐみ保育園(宮崎市) 参加者：37名
 講師：木育推進員候補者 緒方由紀子

➤ 配膳について

まず、お茶碗とお椀、お皿、そして、お箸の並べ方を考えてもらいました。



箸置きの役割を伝え、「食事」とは何かを伝えました。「食事」の時に使う道具が“箸”であり、箸を大事にすることが、食事を大切に考えることにつながることを伝えました。これが、食べる前の挨拶「いただきます」と食べた後の挨拶「ごちそうさま」につながることも伝えました。

➤ 箸置きづくり

今回のプログラムも、使う道具は紙やすりです。事前に研修を受けた地域サポーターが、子どものサポートを行いながら、仕上げていきました。



箸置きが出来上った後は、材料である「オビスギ」について、クイズ形式で考えてもらいました。また、教材を作ってくれた川崎クラフトの仕事である、「建具」について、実際に作られた障子をお借りし、障子が、窓から入る赤外線を大幅にカットすること、密着度が高いので、空調の効きが良いこと、そして、和紙と木で出来ているので、調湿作用により、我々人間の体にも良いことなどを話しました。



出来上った箸置きは、その後の給食で、すぐ使用しました。

● 保護者の感想 ●

- 一生懸命なにかに取り組む娘に感動しました。木のすばらしさを教えてもらった気がしました。
- サポーターの方達と色々お話し交えて工作できたので楽しかったです。

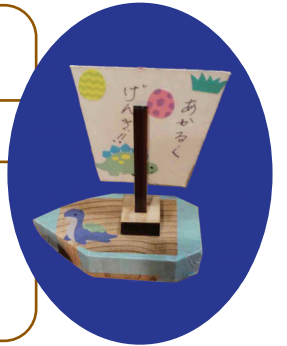


みやざき木育プログラム 第3弾 (対象：年中児～)

お船のプログラム『チョロ船』づくり

みやざき木育地域サポーター研修

日時：令和3年6月26日(土) 10:00～12:00 場所：めぐみ保育園(宮崎市) 参加者：8名
 日時：令和3年7月2日(水) 10:00～12:00 場所：四季の森こども園(日南市) 参加者：9名
 講師：木育推進員候補者 緒方由紀子
 指導：松井 勅尚氏(木育実践研修者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
 吉田 理恵氏(ぎふ木育推進員・NPOmusubi代表・ぎふ木育協会副会長)



プログラムを実施するにあたり、園の木育活動をサポートしてくれる地域の方を対象に、研修会をおこないました。(第1回目の研修の様子…木育かわら版 Vol.14 Page1、第2回目の研修の様子…木育かわら版 Vol.15 Page1)

➤ テーマと目的について

今回のテーマは、子どもたちにオビスギの特性を伝え、「チョロ船」について知ってもらうこと。目的は初めて出会う道具、「ノコギリ」を安全に使えるようになることです。サポーターの皆さまにもご理解頂きながら実践してもらい、注意点などを確認してもらいました。切った材料を、プログラム実践当日までに、完成してもらうよう、伝え終了しました。



プログラム実践当日

日時：令和3年7月28日(水) 10:00～12:00
 場所：四季の森こども園(日南市) 参加者：13名
 日時：令和3年7月31日(土) 10:00～12:00
 場所：めぐみ保育園(宮崎市) 参加者：12名



ノコギリの扱い方を説明しました



大きなノコギリの模型で切り方を説明しました



サポーターの見守りで安全に切ることができました



切った船をプールに浮かべました



教材についてスライドを交え説明しました



筋交いの仕組について分かる簡単な実験をしました

- 地域サポーター 保育士の感想 <一部抜粋>
- 子ども達と作業して楽しかった。もっと作業したかった。
 - 切った木材を自分のものとして誇らしげにしていた。
 - 感想で、子どもが「ありがとう」と言ったことがすごく良かった。

◆ チョロ船の歴史

チョロ船は、軽くて弾力に富み、油分が多く水に強いオビスギで造られた帆走木造船で全長8m×幅2.4mの漁船です。昭和26年(1951)頃には120隻ほどあったチョロ船も、エンジンを搭載したFRP(繊維強化プラスチック)船の建造が増え、昭和40年(1965)以降には姿を消しました。

そこで、平成12年(2000)に、日南市の市民有志で「チョロ船を復元する会」が結成され、全国から寄付金を集め、平成13年(2001)に当時の姿が復元されました。現在は、油津チョロ船保存会が維持管理を行い、日南市の小学生の体験学習などで活用されています。



昭和の油津港の様子



復元したチョロ船

▼ チョロ船についての説明を、動画も踏まえながら行いました。また、実際の大きさ(8×2.4m)で、床面にロープを置き、その中に入ってもらうことで、船を体感してもらいました。



➤ ノコギリを安全に正しく使えるように、まず、ノコギリの扱い方「持ち方・運び方・終わった後の置き方」を説明しました。その後、ノコギリで木を切る時の「ノコギリの向き、持ち方、姿勢、腕の動かし方」を、紙の模型と実際のノコギリで説明しました。

サポーターの皆さんが見守り中、試し切りを数回行い、本番用の船の材を切りました。

皆が切り終わった後は、予め準備していた、帆(牛乳パックに絵を描いたもの)を立てて、プールに浮かべて遊びました。そこで、オビスギの特性である「軽さ(水に浮かぶ)」を感じてもらいました。

最後に、現在はオビスギが家などの建造物や、前回の箸置きの際に伝えた指物などに使われていることを伝えました。今回の教材が筋交いのできる際の材から作られていることを伝え、筋交いに関する簡単な実験を行いました。筋交いは出来上った後の建造物では、壁などの中にあり見えませんが、私たちの命を守るために大事な部材であることを伝えました。

見えないところで、多くの人、モノを支えられていることを感じてもらえたらと願いを込めて、プログラムを終えました。

今回も、地域サポーターの皆さんが生き生きとした表情で子どもたちに接している姿が印象的でした。